

8 月度 <b>例会</b> <b>山行報告書</b>		報告者	片山嘉夫	参加 メンバー	片山嘉夫 (63歳) 部外者2名 K (60歳) T (60歳)
<b>個人</b>		報告日	8 / 19		
山 域	南アルプス	山行日	10年8月8日(日) ~		
山 名	仙丈ヶ岳		8月10日(火)		

山行目的	仲間との定例山行、三千米峰チャレンジ	コースタイム (天候: 天気図記号)	
配布先	ルート図 (地図を見て正確に)	8 / 8 曇りのち雨	8 / 10 晴
総会参加数		12:00 自宅発	5:00 仙丈小屋発
山行: 1 リター		(豊明 IC - 東海環状道 - 中央自動車道 - 伊那 IC) 仙流荘(泊)	5:30 仙丈ヶ岳 5:45 " 発
原紙: 会事務局		8 / 9 曇りのち雨	6:05 小屋分岐
		7:20 仙流荘発 (林道バス臨時便 荷物代込み往復¥2600)	8:00 五合目(一本)
		8:20 北沢峠着	8:55 二合目(一本)
		8:30 " 発	9:30 北沢峠着
		8:50 一合目(一本)	10:00 " 発
		9:35 三合目(一本)	(林道バス)
		10:15 五合目	11:00 仙流荘着
		10:25 " 発	(食事・風呂)
		11:15 小仙丈ヶ岳	12:30 仙流荘発帰途
		11:30 " 発	
		12:30 仙丈小屋分岐	
		12:40 仙丈小屋(泊)	

山行報告

久々の仙丈ヶ岳、久々の3000m、昨年は台風接近で直前の断念と、様々な想いを込めた山行である。  
(30数年前に同じ仲間と来た時は戸台から暑い河原を二日掛りで峠へ、下りは開通直前の林道を歩いて。  
さらに20年程前は一人が夜明け前の薄暗い道で転倒して掌に怪我など) 年齢と体力を考え、甲斐駒ヶ岳  
は無しとし、二日かけて仙丈だけとした。そして、いつもは通過する仙流荘で前泊とした。(中高年の豪華版?)

夜の雨は上がったものの天候が不安定な感じなので雨具を着用。朝一番のバスをやり過ぎてバス停に  
むかっていると「バスに乗りますか?」の声。臨時バスが出るので急げとのこと。慌てて切符を買って乗車。  
(仙丈小屋のオヤジ曰く「甲斐の国のバスは融通がきかない。長谷の方が親切」) 峠迄の乗車中、鋸岳が涅槃佛に見  
えるなどと親切なガイドあり。峠からは尾根道を一合目・二合目とすすむ。登り始めると薄日がさし右手  
の青空のなかに槍穂高がくっきり見える。現役諸君に思いを馳せる。途中から雨になる。汗との挟み撃ち  
で、立ち止まると冷えがすぐ来る。一本は短めとする。五合目(大滝の頭)を過ぎ、ハイマツ帯に入る。  
小仙丈の登り口あたりで雷鳥に遭遇、しばらく並走する。これも30年程前の木曾駒以来だ。明日の天気  
が不透明なので今日の内に小仙丈ヶ岳のピークへ。ここから下る頃  
は一面ガス。真っ白で視界不良。小屋の分岐も慎重に確認。思った  
より早めの到着で、乾杯! 夜になっても雨は上がらず、7時半消灯。  
4時起床。まわりのガスは切れて眼下一面の雲海。八ヶ岳の右手に  
黄金色の朝焼け。爽快な気分で小屋を出発。頂上で三角点と握手!  
昨日とは打って変わっての晴天で、360度の展望。全部見える!  
下りは小仙丈ヶ岳のピークをやり過ぎて左手の巻き道へ。昨日と  
同様に岩を抱えての下りはシンドイ。技量体力に優る仲間のペ-スに  
合わず(せず?)に、とにかくマイペ-スを保つことで何とか無事下山。  
また、大矢君の気象予報のおかげで安心して登山ができた。感謝!!  
久々(最後?)の三千米峰は千変万化の山行が味わえ、思い出深いもの  
になった。(天気、花、雷鳥、鹿、蝶、フロック、円形の虹、きれいな小屋トイ)

確認  
(リター)

片  
10/08/19  
山

作成  
(報告者)

片  
10/08/19  
山



仙丈ヶ岳頂上よりの富士山 (撮影K)  
左上: 仙丈ヶ岳頂上で記念写真  
右上: 仙丈小屋での朝焼け